

◆新型コロナワクチン接種開始◆

※ 5月5日現在の情報です。今後、変更となる可能性があります。

■接種スケジュール

- ・ 4月26日、市内高齢者施設入所者からワクチン接種が開始されました。以降のスケジュールは以下の通りです。
 - 5月10日(月) 75歳以上の方にクーポン券を発送
 - 5月17日(月) 75歳以上の方の集団接種予約開始(電話及び予約サイト)
 - 5月24日(月) 集団接種開始(月・火・土・日の週4日実施)
※ 1日1000回分接種できる環境 ※ファイザー社製
 - 5月31日(月) 65歳以上74歳以下の方にクーポン券を発送予定
- ※ 基礎疾患を有する方、64歳以下の方等のワクチン接種については、決まり次第、改めて市からお知らせがあります

■接種会場

- ・ 集団接種：文化学園大学小平キャンパス(上水南町3-2-1)
※ 小平駅、花小金井駅、小川駅(市役所経由)、東大和市駅(中央公園経由)から送迎バスを運行予定
- ・ 個別接種：一部医療機関等における個別接種については、準備が整い次第開始(60~70箇所となる予定)

◆キャッシュレス決済のポイント付与キャンペーン再び◆

小平市では、昨年度実施したスマホアプリを利用したキャッシュレス購入へのポイント付与キャンペーンを再び行います。(30%ポイント還元)
前回のキャンペーンでは大変好評を博しました。
今回の予算規模：2億円 実施時期：未定(夏以降になりそうです)



竹井ようこ プロフィール

1966年 1月28日 滋賀県生まれ 名古屋育ち
名古屋市立菊里高校、南山大学外国語学部英米科卒
1988年 4月 日本電信電話(株)入社
国際部などで業務経験を積む
1991年 4月 (株)情報通信総合研究所 出向
Didier & Associates法律事務所(ベルギー) 派遣
欧州各国での情報通信政策について調査・分析
1994年 6月~98年 9月 出産・育児のため休業等
職場復帰後は育児に仕事に多忙な日々を過ごす
1999年 7月 NTTコミュニケーションズ(株)
情報通信の最前線で企画・法務等の業務に従事
2015年 4月 小平市議会議員選挙にて初当選
2019年 4月 同 2期目当選

【家族】 夫、長男、長女、柴犬(♀)
【住まい】 小平市仲町
【趣味】 ボッチャ、歌を歌うこと、スポーツ観戦
(ラグビー、バスケットボール、ラクロス、
野球など)
【資格】 防災士、二級知的財産管理技能士、
中学校・高校教諭免許状(英語)



2021年東京都議会議員選挙
立憲民主党公認予定候補に決定!

YouTube配信ははじめました!
『竹井ようこチャンネル』
ご視聴とチャンネル登録をお願いします



<http://takeiyoko.com/>



<https://www.facebook.com/takeiyo>



@takeiyo



(2021年5月発行)

つながって、ささえあう小平へ
小平市議会議員 竹井ようこ

竹井ようこ通信

CONTENTS

- 対談：熊谷俊人千葉県知事×竹井ようこ ……P2~3
- 新型コロナワクチン接種開始 ……P4
- キャッシュレス決済ポイント付与キャンペーン ……P4
- 竹井ようこプロフィール ……P4

小平市議会議員 竹井ようこ

コロナ関連、それ以外問わず、
市政、都政に関するご相談、お困り
ごとはどうぞご連絡ください。



〒187-0041 小平市美園町1-1-15 TEL/FAX: 042-207-1232 E-mail: info@takeiyoko.com

(対談)

熊谷俊人千葉県知事×竹井ようこ

熊谷俊人氏…竹井ようこと同じ会社（NTTコミュニケーションズ）に勤務し、千葉市議会議員を経て、千葉市長を12年間務めた後、今年3月の千葉県知事選挙で過去最多となる140万票余りを獲得し当選。

千葉県知事就任直後の熊谷俊人氏。コロナ禍の対応をはじめ県政の課題に着手する多忙な日々が続く中でしたが、様々な行政課題について議論することができました。

■行政におけるICT活用について

竹井ようこ（以下、「竹井」） コロナ禍の今、市民が市役所の窓口に行かなくても用事を済ませられる環境を整えたり、社会基盤を安全・便利にするためにも、地方自治体は積極的にICT（※）利活用に取り組むべきですね。

熊谷俊人（以下、「熊谷」） まったくそのとおりです。課題のひとつは人材不足。地方自治体にはデジタル技術と行政の両方に長けた人材が不足しています。外部から迎え入れたとしても、その人材が能力を十分に発揮できる風土に乏しいところがあります。ICTに限らず、行政の人材面と流動性、ダイバーシティなどの観点から地方自治を考えていかねばなりません。

竹井 子育てや教育の面でも、依然としてICT利活用が進んでいません。例えば、保育園の申込には膨大な量の書類を手書きする必要があり、世の中のニーズを捉えきれいていません。

熊谷 そうですね。保育行政自体は、命を預かるという点でデジタルになじまない場面もありますが、例えば面談などは保護者が仕事を休まなくても、オンラインで実施可能です。

竹井 小・中学生へのタブレット配付がようやく始まりましたが、私は以前から、学校に行けない生徒のオンライン学習の必要性などを訴えてきました。環境は少しずつ整えられてきてはいますが、タブレットを「配っただけ」にならないようにしなければなりませんね。

（※ ICT:Information and Communication Technology = 情報通信技術）

■子育て施策

竹井 私が市議会議員を志したきっかけの一つが、子育ての課題を解決すること



がでした。子供の成長に伴い、それまでの悩みから一旦は解放されますが、さらに時がたてば新たな悩みが生まれます。そんな時に、自らの経験から「子育て世代はこんなことで悩んでいます。改善してください!」と訴え続ける人が必要だと思ったのです。

例えば、今の子育て世代は、以前よりもっと自然に男性が育児をしています。一方で、男性が赤ちゃんと街へ出かけたときに、男性が使える公共の場所におむつ替え台が無かったりします。「市民」はアップデートしているのに「行政」が追い付いていないのです。

熊谷 働き方の面では、コロナによってテレワークは進みましたが、そもそも、仕事と子育てが普通に両立できる環境であるべきです。介護や子育てなど、ライフステージに変化があったときに柔軟に働き続けることのできる人事制度を構築したいと考えています。

■東京都と小平市

竹井 東京都では、多摩地域と23区の間で「多摩格差」と言われます。コロナ禍で保健所運営の差が顕在化しました。保健所を統廃合した結果、多摩地域は23区に比べ、一つの保健所が受け持つ人口が格段に多くなってしまいました。小平市を含む5市を管轄する多摩小平保健所の対象となる住民数は約74万人。一方、23区にある保健所の平均住民数は約42万人であり、1.7倍以上の開きがあります。

また、保健所から市には詳細な情報が伝わらず、市では市民に寄り添った対応が難しいのが現状です。コロナの陽性患者がどこにいてどんな困りごとを抱えているのか市では把握できない。このような状況を変える必要があります。



■地方行政・広域行政

熊谷 現場最前線の市の行政を十分に理解している人が東京都のような広域行政に携わることはとても大切です。都と市が「言っているのにやってくれない」と責任転嫁し合っても仕方ありません。双方の特徴や立場を理解・尊重し、行動する議員が必要です。

竹井 コロナ禍では国や都との連携の重要性を痛感します。コロナ禍の今だからこそ、市政を熟知する立場で都に意見・要望を訴えていく、都からのフィードバックを市と住民にきちんと伝えていく、そういう“橋渡し役”を担いたいのです。